

北海道大学交流デー（モスクワ国立大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、欧州ヘルシンキオフィスが中心となり、10月10日（水）・11日（木）にモスクワ国立大学において北海道大学交流デーを開催しました。

モスクワ国立大学は、ロシア連邦の首都モスクワ市にあり、1755年に設立され、学生約38,000人、教職員約11,000人が在籍する総合大学です。本学とは、2001年10月に大学間交流協定を締結しています。また、本学が平成29年度に採択された文部科学省の「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」プラットフォーム構築プログラムにおけるロシア側のセントラル・オフィスとして、日露大学協会のロシア側幹事校

の役割を担っています。

初日の午前は全体会が行われ、モスクワ国立大学からはユーリー・マゼイ副学長の他、教職員、研究者等約30名が出席し、本学からは笠原正典理事・副学長をはじめ、各研究科等から合わせて22名が出席したほか、在ロシア日本国大使館の相木俊宏次席公使にも出席いただきました。

全体会では、まず、モスクワ国立大学マゼイ副学長から挨拶及びモスクワ大学の紹介をいただきました。続いて、相木次席公使から挨拶をいただいた後、笠原理事・副学長から挨拶及び本学の紹介が行われました。

その後、分科会（※）の概要について、本学スラブ・ユーラシア研究セン

ターの野町素己教授、モスクワ国立大学アジア・アフリカ研究所のイリヤ・ザイツェフ准教授、モスクワ国立大学



モスクワ国立大学



マゼイ副学長による挨拶



相木次席公使による挨拶



笠原理事・副学長による挨拶

歴史学部ヴラジスラヴ・ジチェニョフ准教授、本学理学研究院のヘレナ・フォルトゥナト准教授、本学地球環境科学研究院のラム・アバタル助教、モスクワ国立大学哲学部のアンドレイ・ランチン教授からそれぞれ紹介がありました。

全体会終了後は、モスクワ国立大学の学生によるキャンパスツアーが実施され、参加者は赤や黄色に色づく木々

を愛でながらモスクワ国立大学内を散策しました。

初日の午後及び二日目は、分野ごとの分科会に分かれ、双方から研究発表等が行われました。各セッションとも活発な議論が交わされ、文献紹介が行われるなど研究面での進展をもたらしたほか、論文集の発刊や研究交流の継続を相互に確認するなど、研究者交流の点からも非常に実りある交流デーと

なりました。

今後も本学では、ロシア連邦の教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流を強化していきます。

(国際部国際連携課)

※ 分科会・テーマ一覧

Session 1-1: Rethinking the Role of Normative Grammar in Society and Beyond: Interdisciplinary Approaches (1) (参加者：約20名)

Session 1-2: Islam in Central Eurasia (Dedicated to the Memory of Professor Dmitrii Iur'evich Arapov together with IVI and INION RAN) (1) (参加者：約15名)

Session 1-3: Human Culture in Northern Eurasia and Arctic: Adaptive Strategy and Cultural Diversity (1) (参加者：約12名)

Session 2-1: Rethinking the Role of Normative Grammar in Society and Beyond: Interdisciplinary Approaches (2) (参加者：約20名)

Session 2-2: Islam in Central Eurasia (Dedicated to the Memory of Professor Dmitrii Iur'evich Arapov together with IVI and INION RAN) (2) (参加者：約15名)

Session 2-3: Mollusks as Tools to Study Climate Change Impacts in Marine Environments (参加者：約25名)

Session 3-1: Russian Literature and World Cultures (参加者：約14名)

Session 4-1: Geospatial Techniques for Environmental Monitoring (参加者：約25名)

Session 4-2: Human Culture in Northern Eurasia and Arctic: Adaptive Strategy and Cultural Diversity (2) (参加者：約12名)



キャンパスツアー参加者



分科会の様子